

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

入門・初級者のための語根母音変化動詞の見分け方

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮本, 正美 メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/454

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



入門・初級者のための 語根母音変化動詞の見分け方¹

宮 本 正 美

1. はじめに

スペイン語を学ぶ入門者あるいは初級者にとって最大の障害の1つが、動詞活用形の習得であることは間違いない。英語と異なり、1つの動詞が複合形も含めると101あるいは102の語形を持つ²のだから、確かにそのハードルは高いと言わざるを得ない。それでも、週に6コマのスペイン語の必修科目を履修する専攻の学生の場合³は、2年間でほとんどがそれらの変化形を一応記憶するレベルには達する。しかし、1年次（前半）の入門時期にあっては、スペイン語を第2外国語として週に2コマ学ぶ学生同様に、専攻の学生にとっても動詞活用形を習得するプレッシャーはかなり大きく、忍耐強くこの習得努力を持続できない学生の中から落伍者の出る可能性は小さくない。

スペイン語の動詞活用形が100以上あっても、仮にすべての動詞が規則活用であれば、学習者の負担は「堪え難い」と言うほどではないだろう。規則動詞は約87.26%を占めるが、十分予想されるように、高頻度動詞の多くが

1 本稿は2009年8月28日の口頭発表、宮本（2009）の修正・加筆版である。宮本（2009）のスペイン語レジュメはMiyamoto（2009）。

2 ar動詞とir動詞の異なり語形が¹101、er動詞が¹102である。宮本（2005）参照。

3 本学の場合、スペイン語の必修科目を1年から3年まで週6コマ、4年は4コマ、さらに、スペイン語学概論やいくつかのスペイン語学特殊講義、スペイン語演習などスペイン語に関する授業を選択（必修）科目として、学ぶことになる。

4 本稿で対象とした8,291動詞中、7,235動詞が規則動詞だということを意味する。2009年12月に出版されたRAE（2009: 4.6d）は、DRAE（2001）の動詞を対象にして、88.85%を規則動詞だとしている。何を規則動詞と考えるかによって、この比率はいくらか増減する。本稿で何を規則動詞とするかは以下で述べる。

不規則動詞である点⁵が入門・初級者にとって大きな問題となる。

その上、*montar*「乗る、組み立てる」は規則動詞だが、*contar*「語る、数える」は不規則動詞、*comprender*「理解する」は規則動詞だが、*entender*「理解する」は不規則動詞という有様で、学習者は個々の動詞が規則活用なのか不規則なのかも覚えていかなければならないものとされている。教室以外、あるいは教科書以外で実践する機会のない入門・初級者にとっては、これも大きな負担である。

そこで本稿では、入門・初級者が規則動詞と不規則動詞を簡単に見分ける方法はないのかどうかを、高頻度不規則動詞の中心をなす語根母音変化動詞⁶を対象に考察してみる。

2. 規則動詞と不規則動詞

考察を進めるにあたり、まず、規則動詞と不規則動詞を定義しておこう。不定詞 *entender* を例にとると、屈折辞である末尾の *er* を「活用語尾」と呼ぶ。活用語尾をとった部分 *entend* を「語幹」と呼ぶ。語頭の *en* は接頭辞とも考えられるので、この接頭辞も除いた *tend* を「語根」と呼ぶ。本稿では、活用形の語幹が不定詞の語幹と同じ動詞を「規則動詞」、少しでも異なる動詞を「不規則動詞」と呼ぶことにする。

但し、次の3つの変化は規則変化として扱う：

(1) 正書法変化

buscar /buskár/「探す」: *busc* /busθé/ ⇒ *busqué* /buské/ のように、発音に合わせて綴りを変化させるため⁷字面では不規則に見えるが、活用そのも

5 約1.2ギガバイト、総語数約1.87億語の現代スペイン語のテキストを走査して動詞の使用頻度を求めると、上位10動詞は以下の通り：*ser, estar, tener, hacer, poder, decir, pasar, ir, dar, deber*。また、上位100動詞中の不規則動詞は44個、そのうち語根母音変化動詞は19個である。

6 脚注5で述べた調査では、不規則動詞の頻度数上位100位中、語根母音変化動詞は41個もある。

7 *comenzar* /comenθár/「始める・始まる」: *comenzé* /comenθé/ ⇒ *comencé* /comenθé/ のように、現代のスペイン語では、*ce* と *ze* は同じ発音だが、歴史的に異なったために綴りを変化させている動詞もある。

のは規則的な変化。

(2) i 音脱落

tañer 「(楽器を) かき鳴らす」: tañió ⇒ tañó, bullir 「煮えたぎる」: bullieron ⇒ bulleron のように, ñ, ll, i, j の後ろ⁸で ie/io ⇒ e/o に変化するが, 活用語尾の変化なので規則的な変化として扱う。

(3) y 音化

caer 「落ちる」: caió ⇒ cayó, creer 「思う」: creieron ⇒ creyeron のように, 母音 a/e/o/u で終わる語根の後¹⁰で, ie/io ⇒ ye/yo に変化する, 活用語尾の変化なので規則的な変化とする。

3. 語根母音変化動詞

さて, 本稿で対象とする語根母音変化動詞とは, entender のように語根 (tend) の末尾の母音 (e) が変化する動詞のことである。現代の標準半島スペイン語, つまり, スペインの標準的なスペイン語では, それは次の3群に分類することができる:

3.1 第1群

第1群は, 直説法と接続法の現在形, 命令法の2人称単数形において, アクセントのくる語根母音の e/o/i/u がそれぞれ, ie/ue/ie/ue に2重母音化するグループである:

entender ⇒ **entiendo, entiendes, entiende, entendemos, entendéis, entienden**; **entienda, entiendas, entienda, entendamos, entendáis,**

8 原・Contreras 他 (2005: 2034-2035) は, さらに ch を加え, その代表として henchir 「膨らます」を挙げている。桑名・出口他 (1990) でも, henchir は i 音脱落動詞として扱っていたが, 高垣・宮本他 (2007) では, vestir, pedir などと同様の第3群の動詞として扱う。rehenchir 「(物を詰めて, ふとんなどを) 膨らませる」は, いずれの辞書も i 音脱落動詞ではなく第3群の動詞として扱っている。

9 caer は y 音化以外に, cao ⇒ caigo, caa ⇒ caiga の変化が起るので不規則動詞とする。

10 語頭でこの変化が起る唯一の動詞 error 「間違う」は不規則動詞としておく。

entiendan; **entiende**

contar ⇒ **cuento, cuentas, cuenta, contamos, contáis, cuentan;**
cuente, cuentes, cuente, contemos, contéis, cuenten; cuenta

adquirir 「手に入れる」 ⇒ **adquiero, adquieres, adquiere, adquirimos,**
adquirís, adquieren; adquiera, adquieras, adquiera, adquiramos,
adquiráis, adquieran; adquiere

jugar 「遊ぶ」 ⇒ **juego, juegas, juega, jugamos, jugáis, juegan; juegue,**
juegos, juegue, juguemos, juguéis, jueguen; juega

3.2 第2群

第2群は、直説法と接続法の現在形、命令法の2人称単数形においてアクセントのくる語根母音の *e/o* がそれぞれ、*ie/ue* に2重母音化し、点過去3人称、現在分詞、接続法現在の1人称複数・2人称複数、と接続法過去においては、語根母音の *e/o* がそれぞれ、*i/u* に閉母音化するグループである：¹¹

herir 「傷つける」 ⇒ **hiero, hieres, hiere, herimos, herís, hieren; hiera,**
hieras, hiera, hiramós, hiráis, hieran; hiere; herí, heriste, hirió,
herimos heristeis, hirieron; hiriera, hirieras, hiriera, hirierámos,
hirierais, hirieran; hiriendo

dormir 「眠る」 ⇒ **duermo, duermes, duerme, dormimos, dormís,**
duermen; duerma, duermas, duerma, durmamos, durmáis, duerman;

11 $e \Rightarrow ie \Rightarrow i$ の変化は、形態音韻論的に記述すれば、例えば、原・Contreras 他 (2005: 2036) のように、「母音 *i* (半母音ではない) で始まる活用語尾の前では *e*、語根に強勢がある活用形では *ie*、その他は *i* になる」となるだろう。「母音 *i* (半母音ではない)」は、具体的には、「母音 *i* (但し、*ie, io* を除く)」ということである。本論の趣旨から以下、特に形態音韻論的記述は控えるが、*ie / io* という環境がスペイン語の語形変化にとって重要であることは留意しておくにたる事実である。

12 第2群の $e \Rightarrow ie \Rightarrow i$ 変化の代表動詞としては、*sentir* を挙げることが多いが、私たちは *herir* をあえて選ぶ。理由は以下で明らかにする通りである。

13 $o \Rightarrow ue \Rightarrow u$ 変化をする動詞は、この *dormir* と *morir* 「死ぬ」、及び、それぞれの派生語 (*adormir* 「うとうとさせる」、*entremorir* 「消えかかる、死にかかる」、*premorir* 「(ある人より) 先に死ぬ」) のみ。

duerme; *dormí*, *dormiste*, *durmió*, *dormimos*, *dormisteis*, *durmieron*;
durmiera, *durmieras*, *durmiera*, *durmiéramos*, *durmierais*, *durmieran*;
durmiendo

3.3 第3群

第3群は、直説法現在においてアクセントのくる語根母音の *e* が *i* に、さらに、接続法現在形、命令法2人称単数形、点過去3人称、接続法過去と現在分詞でも、語根母音 *e* が *i* に変化するグループである：

¹⁴
vestir 「着せる」 ⇒ *visto*, *vistes*, *viste*, *vestimos*, *vestís*, *visten*; *vista*,
vistas, *vista*, *vistamos*, *vistáis*, *vistan*; *viste*; *vestí*, *vestiste*, *vistió*,
vestimos, *vestisteis*, *vistieron*; *vistiera*, *vistieras*, *vistiera*, *vistiéramos*,
vistierais, *vistieran*; *vistiendo*

ここで説明した以外の不規則な変化をする動詞は、ここでは語根母音変化動詞としては扱わない。例えば、*querer* 「欲しい」は、直説法と接続法の現在形では、第1群あるいは第2群の変化を見せるが、点過去は *querí*, *queriste*, {*querió*/*quirió*}, *querimos*, *queristeis*, {*quiereron*/*quirieron*} ではなく、*quise*, *quisiste*, *quiso*, *quisimos*, *quisisteis*, *quisieron* のように不規則に活用する。*poder* 「...できる」も、直説法と接続法の現在形では、第1群あるいは第2群の変化を見せるが、点過去は *podí*, *podiste*, {*podió*/*pudió*}, *podimos*, *podisteis*, {*podieron*/*pudieron*} ではなく、*pude*, *pudiste*, *pudo*, *pudimos*, *pudisteis*, *pudieron* のように不規則に活用する。このような動詞は、¹⁵語根母音変化動詞として扱わない。

14 第3群の代表動詞としては、*pedir* を挙げることが多いが、私たちは *vestir* をあえて選ぶ。理由は以下で明らかにする通りである。

15 *oler* に関しては脚注34を参照。

4. 語形からの見分け方

4.1 派生関係にある語形

本稿で提案する規則動詞と語根母音変化動詞の見分け方は、それぞれの不定詞の語形によるものである。従来も、語形に着目した活用形の異同に関する説明は行われている。それは派生関係にある動詞は同じ活用形をとるというもので、例えば、規則動詞 *montar* の派生語 *remontar* 「登る、さかのぼる」は同じく規則活用をし、一方、不規則動詞 *contar* の派生語 *recontar* 「数え直す、再び語る」は同様の不規則動詞だと説明される。つまり、「接頭辞 + 語基」形の動詞は、「語基」の動詞と同じ活用形だというものである。¹⁶ この例外は、*aferrar* 「(力を入れて) つかむ」(第1群の語根母音変化動詞) ⇒ *desaferrar* 「解き放つ」(規則動詞)¹⁷ など、わずかしかなないと考えられる。

もう一つは、派生関係にある名詞・形容詞と動詞は、同じ(語根)母音の変化を起こすというもので、例えば、*volar* 「飛ぶ」は、その派生関係にある名詞 *vuelo* 「飛行」のアクセントのくる母音が *ue* であることから、*o* ⇒ *ue* の変化をする語根母音変化動詞であると推測される。*calentar* 「熱する」も、その派生関係にある形容詞 *caliente* 「熱い」のアクセントのある母音が *ie* であることから、*e* ⇒ *ie* の変化をする語根母音変化動詞であると予想することができる。

4.2 語根の母音以降の語形：

語根母音変化動詞の変化する語根母音が *a* 以外の *e/o/i/u* であることは、3節で確認した。本稿で提案する語形による規則動詞・語根母音変化動詞の見分け方、さらには、語根母音変化活用の第1群から第3群のどの群であるかの見分け方は、不定詞の語根母音以降の語形(これを以下「語末形」と呼

16 *-jugar* の語形をとる動詞には、*conjugar* 「(動詞を) 活用する」、*de(s)jugar* 「液汁を絞る」、*enjuagar* 「水気をふきとる」があるが、これらの動詞は、*u* ⇒ *ue* の変化を起こさない。*con-*、*des-*、*en-* が接頭辞ではない、つまり、*jugar* からの派生動詞ではないためである。

17 高垣・宮本他(2007:624)には、「古くは」*aferrar* と同じ活用形だとの注が付いている。

ぶ), 例えば, *entender* の *ender* による。

4.3 語末形の調査法 :

以下, 語根母音変化動詞の不定詞の語末形毎に, その語末形を持つ動詞が語根母音変化動詞なのか規則動詞なのか, 語根母音変化動詞の比率はどのくらいなのか, などを調査していく。調査対象は, 第2節の「規則動詞と不規則動詞」の分類に従って, 桑名・出口他 (1990) 収録の8,291個の動詞から作成した *fukisoku_09* と *kisoku_09*¹⁸ の2つのファイルである :

katsuyo/fukisoku_09:

abastecer 34 r

abestiar 83 r

ablandecer 34 t

abnegar 9 r

abolir 81 t

..... (中略)

xerocopiar 83 t

yacer 38 i

yuxtaponer 41 t

zaherir 27 t

zambuir 49 i

katsuyo/kisoku_09:

abacorar t

abajar t

18 *agredir* [活用表81] など数個の不規則動詞番号を修正して使用している。不規則動詞の活用形認定については, 宮本 (2004) を参照。ファイル中の34, 83などの番号は桑名・出口他 (1990) の活用表番号, r は再帰動詞を, t は他動詞を, i は自動詞を意味する。*fukisoku_09*が¹1,283動詞, *kisoku_09*が⁷7,008動詞から成る。

abalanzar 97 rt
abalar t
abaldonar t
..... (中略)
zurcir 99 t
zurdear t
zurear i
zurrar t r
zurriagar 103 t

不規則番号 8 番の *apretar* 「押す」を例に、調査法の概略を述べてみよう。*apretar* に代表される活用形をとる動詞群を *apretar* 「系」と呼ぶことにする。

(1) 各動詞系の語末形の異なり頻度数を求める。

次の 1 行コマンドで不規則番号 8 番 *apretar* 系の動詞の語末形の異なり頻度数、つまり、その語末形を持つ動詞の数を求める：

```
egrep " 8 " katsuyo/fukisoku_09 | perl prog/y80624.pl e | awk 'x[$1]++'  
END {for(w in x){print x[w], w}} | sort -k1nr | awk 'if($1>=5){printf("%s ",  
$0)}END{printf("\n")}'
```

出力 (頻度数 5 以上) : 32 *entar* 15 *errar* 9 *endar* 6 *ebrar* 6 *ernar* 6 *ertar*

(2) 出力された語末形の「語根母音変化動詞数 / (語根母音変化動詞数 + 規則動詞数)」, 即ち、語根母音変化動詞の比率を求める。*entar* の場合：

19 本稿末の Appendix 1 に掲載の *y80624.pl* を参照。

20 頻度数 5 以上に限っているのは、ある程度の頻度数がないと、以下の(2)の処理結果の有意性も低いからである。Miyamoto (2009) では、動詞頻度数 3 以上に対象を広げれば、*-etir:repetir, derretir, ... -olgar: colgar, holgar, ... -ocer: cocer, escocer, ...* などのように、語根母音変化動詞率が 100% の「語末形」がいくつか増えることにも言及したが、ここでは、宮本 (2009) の内容通り、頻度数 5 以上だけを取り上げた。

egrep "entar" katsuwo/kisoku_09|wc|perl prog/y91026.pl²¹
出力：28.32%²²

5. 語根母音変化動詞に特有の語末形

以下，上に述べた手法によって，各動詞系の語末形の異なり頻度数と，頻度数5以上の各異なり語末形の語根母音変化動詞率を求める。

5.1 第1群 e ⇒ ie グループ

e ⇒ ie に変化する語根母音変化動詞を総称して e ⇒ ie グループと呼ぶことにするが，このグループには，以下の動詞系がある：

8番 *apretar* 系

9番 *negar* 「否定する」系

10番 *empezar* 「始める，始まる」系

11番 *errar* 「間違う」系²³

12番 *tender* 「広げる」系

14番 *discernir* 「見分ける」系

5.1.1 *apretar* 系：

32 *entar* 15 *errar* 9 *endar* 6 *ebrar* 6 *ernar* 6 *ertar*

entar：28.32%

errar：75.00%

endar：56.25%

ebrar：54.55%

ernar：31.58%

ertar：42.86%

21 本稿末の Appendix 2に掲載の y91026.pl を参照。

22 小数点3桁以下は切り捨て。

23 実は，*errar* が唯一の動詞。

5.1.2 negar 系 :

20 egar

egar : 15.78%

5.1.3 empezar 系 :

異なり頻度数5以上なし。²⁴

5.1.4 errar 系 :

errar のみ。

5.1.5 tender 系

20 ender

ender : 46.51%

5.1.6 discernir 系

異なり頻度数5以上なし。²⁵

5.2 第1群 o ⇒ ue グループ

o ⇒ ue グループには、以下の動詞系がある :

15番 contar 「語る, 数える」系

16番 trocar 「交換する」系

17番 rogar 「お願いする」系

18番 degollar 「首をはねる」系

19番 avergonzar 「恥をかかせる」系

20番 forzar 「強制する」系

21番 desosar 「(魚などの)骨を抜く, (果物の)種をとる」系

22番 mover 「動かす」系

23番 volver 「戻る」系

24番 cocer 「煮る」系

24 ezar が4動詞, enzar が3動詞であった。

25 ernir が3動詞, endir が1動詞であった。

25番 oler 「臭う, 匂う」系

5.2.1 contar 系

17 olar 11 ollar 9 ordar 8 onar 8 ostar 5 obar 5 oblar

olar : 25.37%

ollar : 26.19%

ordar : 50.00%

onar : 3.20%

ostar : 47.06%

obar : 25.00%

oblar : 41.67%

5.2.2 trocar 系

7 ocar

ocar : 13.73%

5.2.3 rogar 系

異なり頻度数5以上なし。²⁶

5.2.4 degollar 系

異なり頻度数5以上なし。²⁷

5.2.5 avergonzar 系

異なり頻度数5以上なし。²⁸

5.2.6 forzar 系

異なり頻度数5以上なし。²⁹

5.2.7 desosar 系

異なり頻度数5以上なし。³⁰

26 olgar が3動詞, ogar, ongar がそれぞれ1動詞であった。

27 orar が2動詞, oldar, ollar がそれぞれ1動詞であった。

28 onzar が2動詞のみであった。

29 orzar が4動詞のみであった。

30 desosar のみであった。

5.2.8 mover 系

³¹
7 oler 6 over

oler : 100.00%

over : 100.00%

5.2.9 volver 系

11 olver

olver : 100.00%

5.2.10 cocer 系

³³
異なり頻度数5以上なし。

5.2.11 oler 系

³⁴
異なり頻度数5以上なし。

5.3 第1群 i ⇒ ie グループ

i ⇒ ie グループは、30番 *adquirir* 系のみ。

5.3.1 *adquirir* 系

³⁵
異なり頻度数5以上なし

5.4 第1群 u ⇒ ue グループ

³⁶
u ⇒ ue グループは、脚注16でも述べたように、*jugar* のみである。

31 以下に挙げる *oler* 系を含めると、異なり頻度数は7になる。

32 以下に挙げる *oler* 系を含めると、語根母音変化動詞率は100.00%である。

33 *orcer* が4動詞、*ocer* が3動詞であった。

34 *oler* のみであった。*oler* は直説法と接続法の現在形で、*huelo*, *hueles*, *huele*, *olemos*, *oléis*, *huelen*; *huela*, *huelas*, *huela*, *olamos*, *oláis*, *huelan* のように変化し、*ue* の前に *h* が付与される。これは、スペイン語で *io* を除く「閉母音+開母音」から成る2重母音が語頭に現れる場合には *h* を付与すると考えられるので、*oler* は語根母音変化動詞として扱っておく。

35 *irir* は、*adquirir*, *inquirir* 「取り調べる」、*perquirir* 「丹念に調べる」の3動詞のみ。*Bosque y Pérez* (1987) にはさらに古語の *pesquirir* が収録されている。

36 但し、*ugar* の語根母音変化動詞率は5.00%にすぎない。つまり、*ugar* を語末形にとる動詞は圧倒的に規則動詞である。

5.5 第2群 e ⇒ ie ; e ⇒ i グループ

e ⇒ ie ; e ⇒ i グループは、27番 sentir 「感じる」系のみ。

5.5.1 sentir 系

23 erir 10 ertir 9 entir

erir : 100.00%

ertir : 100.00%

entir : 100.00%

erir, ertir, entir のいずれも語根母音動詞率が100%であること³⁷、特に、23動詞もの多くを数える erir がすべて語根母音変化動詞であることは注目に値する。

5.6 第2群 o ⇒ ue ; o ⇒ u グループ

第2群の o ⇒ ue ; o ⇒ u グループには、以下の動詞系がある：

28番 dormir 系

29番 morir 系

5.6.1 dormir 系

異なり頻度数5以上なし³⁸

5.6.2 morir 系

異なり頻度数5以上なし³⁹

5.7 第3群 e ⇒ i グループ

第3群の e ⇒ i グループには、以下の動詞系がある：

1 番 pedir 「頼む」系

2 番 corregir 「訂正する」系

37 「-entir, -erir, -ertir で終わる動詞はすべて不規則である」旨を Alcoba (1999: 4952) も述べている。cf. 土井 (2006: 168)

38 ormir が2動詞のみ。

39 orir が3動詞のみ。但し、別に colorir, despavorirse など、81番の欠如動詞が3つある。

3番 seguir 「続ける・続く」系

4番 teñir 「染める」系

5番 reír 「笑う」・ 6番 freír 「揚げる」系⁴⁰

5.7.1 pedir 系

11 edir 7 estir

edir : 78.57%

estir : 100.00%

5.7.2 corregir 系

6 egir

egir : 100.00%

5.7.3 seguir 系

5 eguir

eguir : 100.00%

5.7.4 teñir 系

10 eñir

eñir : 100.00%

5.7.5 reír・freír 系

7 eír

eír : 100.00%

6. 考察と提案

以上、8,291個の動詞リストを対象に、異なり動詞頻度数5以上の「語末形」の語根母音変化動詞率を調査してきた。100%の語根母音変化動詞率を示した「語末形」は、以下の11である：

mover 系の oler と over

volver 系の olver

40 6番 freír 系は過去分詞が不規則形だという違いだけなので、まとめて処理する。

sentir 系の erir, ertir と entir

pedir 系の estir

corregir 系の egir

seguir 系の eguir

teñir 系の eñir

reír · freír 系の eír

第1群 o ⇒ ue グループの oler, over, olver は、代表動詞の volver に
よって、「語末形」の olver を提示し、あわせて、その語根母音と語尾の間
の lv から、l と v を取り出し、他の2つの語末形 oler と over を提示すると
よいだろう。volver 系の代表動詞は volver でよい。mover 系の「語末形」
には、over と oler があり、この2つは異なり動詞頻度数が拮抗している。
しかし、over の重要動詞が mover と llover 「雨が降る」であるのに対し、
oler は、doler 「... が痛む」、moler 「粉にする、ひく」、oler 「(+a...) ... の臭
い・匂いがする」、soler 「... するのが常である」なので、代表動詞を挙げる
とすれば mover よりも例えば moler の方がよいだろう。

第2群 e ⇒ ie ; e ⇒ i グループの erir, ertir, entir は、このグループの
代表動詞として sentir を挙げる辞書が多いが、erir の「語末形」を持つ
動詞が entir の動詞より倍以上多いことから、herir を代表動詞とするのが
よい。herir によって、「語末形」の erir を提示し、r に t を加えて ertir と、
ertir の r を n に変えて entir という2つの「語末形」を挙げる。そしてそ
れぞれの代表動詞として、例えば、convertir 「変換する」と sentir 「感じ

41 ovler という「語末形」を持つ動詞はない。これは、スペイン語の「文字配列規則」に vl が
ないことからもうなずける。

42 oler は、脚注34で述べたように、「閉母音+開母音」から成る2重母音が語頭に現れる場合には
h を付与するというルールを教える例にもなる。

43 しかも、herir 以外に、preferir 「(... の方を) 好む」、referir 「(se a...) ... に言及する」、
sugerir 「示唆する、勧める」など重要な動詞も多い。

る、残念に思う」を提示するとよいだろう。erir に関しては、eCir, つまり e+子音+ir の「語末形」をとる動詞は（ほぼ）すべて不規則動詞だという事実にも注意を喚起する必要がある。agredir「攻撃する」、tra(n)sgredir「(法を) 犯す」を私たちは、規則と不規則活用の間での揺れのあることを認めたと、規則活用動詞としているが、これらを不規則動詞だとする辞書も少なくない。もし、これらも不規則動詞だという立場にたてば、eCir の「語末形」をとる動詞はすべて不規則活用動詞ということになる。

第3群 e⇒i グループの *estir*, *egir*, *eguir*, *eñir* については、代表動詞の選択について次のような提案ができるだろう。*estir* は *pedir* 系の語根母音変化動詞率100%の「語末形」であり、*pedir* に代表される *edir* は78.57%である。実は「語末形」が *edir* の規則動詞とは、上に述べた *agredir* と tra(n)sgredir なのであるが、仮にこれらを不規則動詞だとみなしても、語根母音変化動詞ではないので、*edir* の語根母音変化動詞率が100%になることはない⁴⁸。従って、代表動詞としては、*pedir* ではなく *vestir* を立てるのがよい。*egir*, *eguir*, *eñir* については、eCir の「語末形」をとる動詞が（ほぼ）すべて不規則活用動詞だというルールを実証している。それぞれの代表動詞としての、*corregir*, *seguir*, *teñir* については問題がない。*eñir* と *eír* は、それぞれ語根末尾の n と i の直後で活用語尾の ie/io が e/o に変化する i 音脱落動詞である点に注意が必要だ。*reñir* を *eír* の代表動詞とすることには問題がない。

44 あるいは、*convertir* の代わりに *divertir*「楽しませる」あるいは *invertir*「投資する」を、*sentir* の代わりに *mentir*「嘘をつく」でもよい。

45 *transgredir* については、宮本 (2004:103-104) を、*agredir*, tra(n)sgredir については、高垣・宮本他 (2007) を参照。

46 eCir の不規則活用動詞は84個。

47 「語末形」*estir* の重要動詞が *vestir* ぐらいであるのに対し、*edir* には、*pedir* 以外に、*medir*「測る、(寸法が) ... である」、*impedir*「妨げる」がある。

48 RAE (2009: 4.10p) は *pedir* に代表される -*edir* 動詞も100% /e/ ~ /i/ 変化をする語根母音変化動詞と考えているようである。しかし、DRAE (2001) や DPD (2005) では *agredir*, tra(n)sgredir が今日では規則動詞として用いられていると記載している点から考えて、RAE (2009) のこの記述は不適切だと言わざるをえない。

語根母音変化動詞率が100%未満の「語末形」の異なり動詞頻度数とそれぞれの語根母音変化動詞率から、以下の2つの動詞系の代表動詞の是非を検討してみよう：

apretar 系は、異なり動詞頻度数からは、32の *entar* が候補となり、語根母音変化動詞率からは、75%の *errar* が候補となる。*entar* の重要動詞としては、*calentar* 「熱する」、*sentar* 「座らせる」ぐらいであるし、*errar* は、*cerrar* 「閉める」、*encerrar* 「閉じ込める」ぐらいなので、*apretar* の代わりに語根母音変化動詞率の高い *errar* を「語末形」とする *cerrar* をこの動詞系の代表とするのがよいだろう。

contar 系は、特に語根母音変化動詞率の高い「語末形」はないので、異なり動詞頻度数が一番多い *olar* を「語末形」とする *volar* を代表動詞とするのがよい。

7. 結 び

本稿では、語根母音変化動詞か否かの判断を、「語末形」による語根母音変化動詞率から求める方法を提案した。単純な語形による判断なので、入門・初級者にとっても簡単に理解することができる。異なり動詞頻度数5以上の「語末形」に限れば、語根母音変化動詞率が100%の「語末形」は、*volver* 系の *olver*、*moler* 系の *oler* と *over*、*herir* 系の *erir*、*ertir*、と *entir*、*vestir* 系の *estir*、*corregir* 系の *egir*、*seguir* 系の *eguir*、*teñir* 系の *eñir*、*reñir*・*freír* 系の *eír* の11「語末形」のあることが分かった。それぞれの代表動詞、例えば、*volver*、*moler*、*mover*、*herir*、*convertir*、*sentir*、*vestir*、*corregir*、*seguir*、*teñir*、*reír* を提示することで、入門・初級者も語根母音変化動詞を確実に見分けることができる。また、今回の分析を通じて、*eCir* の語末形をとる動詞の（ほぼ）すべてが不規則活用動詞であることも分かった。

今回、語根母音変化動詞か否かの判断に「語末形」の視点が十分有効であ

ることが明らかになった。この視点によって、*confiar*「信頼する」vs. *apreciar*「評価する」という2重母音分立 vs. 非分立動詞の区別や、その他の不規則活用動詞系の区別はできないのか、さらには、規則動詞か否かの判断ができないのかどうかといった問題をこれからの課題としておきたい。

参考文献

- [1] Alcoba, Santiago (1999) : “Capítulo 75.La flexión verbal”, Bosque y Demonte (1999), Vol.3, pp.4915-4991.
- [2] Bosque, Ignacio y Violeta Demonte (1999) : *Gramática descriptiva de la lengua española*, 3 vols., Espasa.
- [3] Bosque y Pérez (1987) : *Diccionario inverso de la lengua española*, Gredos.
- [4] DRAE (2001) : *Diccionario de la lengua española*, Real Academia Española, 22 edición.
- [5] DPD (2005) : *Diccionario panhispánico de dudas*, Real Academia Española.
- [6] 土井裕文 (2006) : 「第75章動詞の屈折」, 関西スペイン語研究会 (2006), pp.162-173.
- [7] 江藤一郎 (2003) : 『基本スペイン語文法』, 芸林書房。
- [8] 原誠, Enrique Contreras 他 (2005) : 『クラウン西和辞典』, 三省堂。
- [9] 関西スペイン語研究会 (2006) : 『「スペイン語記述文法」章別和文要約3』。
- [10] 桑名一博, 出口厚実他 (1990) : 『西和中辞典』, 小学館。
- [11] 宮城昇, 山田善郎他 (1999) : 『現代スペイン語辞典』, 白水社。
- [12] 宮本正美 (2004) : 「スペイン語の不規則動詞分類」, 神戸外大論叢, 第55巻, 第6号, pp.93-109。
- [13] ——— (2005) : 「電子辞書のためのスペイン語動詞活用形の展開」, 神戸外大論叢, 第56巻, 第5号, pp.79-97。
- [14] ——— (2009) : 「入門・初級者のための語根母音変化動詞の見分け方」, 2009年度 Seminario de Lingüística Española de Japón (SELE2009), 2009年8月28日, 於長浜ドーム宿泊研修館, 口頭発表。
- [15] Miyamoto Masami (2009) : “Método dirigido a estudiantes de nivel inicial para la identificación de verbos con alternancia vocálica”, *Lingüística Hispánica*, Vol.32, p.72.
- [16] RAE (2009) : *Nueva gramática de la lengua española*, 2 vols., Real Academia Española.

[17] 高垣敏博, 宮本正美他 (2007): 『西和中辞典』(改訂版), 小学館。

Appendix 1

```
# 名称: y80624.pl
# 機能: 不定詞を第1フィールドとするリストから、指定された(語根)母音字(候補)
#      以降を打ち出す。
# 書式: egrep "8" katsuyo/fukisoku_09 | perl prog/y80624.pl e
#       語根母音が e の場合。
#
# 参考: 親プロセス(本体)の出力を子プロセス(サブルーチン)で処理する。
#       つまり、出力の後処理を別のスクリプトではなく、同一スクリプト中で行う。
#####

$gb=shift(@ARGV);

reverso();

while(<>)
{
  chomp;
  @F=split;
  if(substr($F[0], 0, length($F[0])-3) =~ $gb)
  {
    printf("%s%s", substr($F[0], length($F[0])-1, 1), substr($F[0], length($F[0])-2, 1));
    for($i=length($F[0])-3; $i>=0; $i--)
    {
      if(substr($F[0], $i, 1) ne $gb)
      {
        printf("%s", substr($F[0], $i, 1));
      }
      else
      {
        printf("%s¥n", $gb);
        last;
      }
    }
  }
}
close STDOUT;
exit;

sub reverso {

  my $pid;
  return if $pid = open STDOUT, "|-";
  die "cannot fork: $!" unless defined $pid;
  while (<STDIN>) {
    chomp;
    $rmr = reverse($_);
    print $rmr, "¥n";
  }
  exit;
}
```

Appendix 2

```
# 名称 : y91026.pl
# 機能 : パイプで出力された語末形の「語根母音変化動詞数/
#       (語根母音変化動詞数+規則動詞数)」、即ち、
#       語根母音変化動詞の比率を求める。
# 書式 : egrep "entar " katsuyo/kisoku_09 lwc lperl prog/y91026.pl 32
#       "entar " は対象語末形、32 は語根母音変化動詞数
# 出力例 : 28.32%
#
#####

$gbhds=shift @ARGV;
while(<>) {
    chomp;
    @kds=split;
    printf "%6.2f%¥n", 100*$gbhds/($gbhds+$kds[0]);
}
}
```